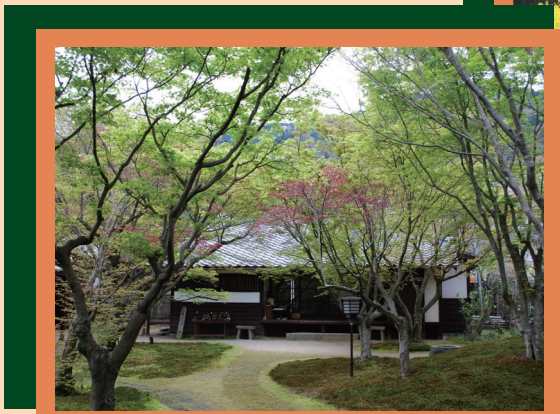
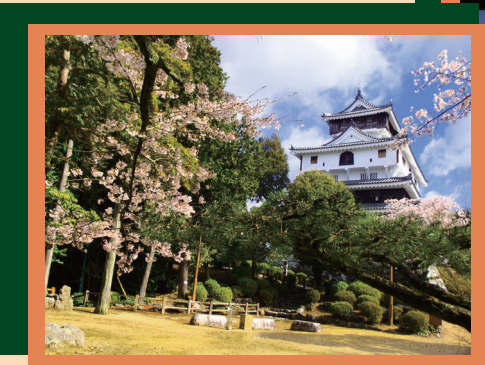


第2次岩国市観光ビジョン



- 岩国市観光ビジョンについて -

◆観光ビジョンの趣旨

岩国市では、観光の目指すべき方向性を定め、多様な観光ニーズに対応する観光振興の推進を図るため、2015（平成 27）年に「岩国市観光ビジョン」を策定しました。このビジョンは、本市の観光の担い手となるすべての人の共通のビジョンとしての役割を担ってきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症により、観光地や観光産業に大きな影響を与え、観光客数の減少や旅行形態の変化など、観光を取り巻く環境は大きく変化したところです。

そうしたことから、ポストコロナ時代における本市の観光の目指すべき方向性を定め、その実現に向けた施策の推進を図るために「第2次岩国市観光ビジョン」を策定します。

◆岩国市観光ビジョンの位置づけ

第3次岩国市総合計画における観光関連施策の個別計画と位置づけ、市が策定する他の個別計画、国や山口県の計画との整合性を保ち、連携しながら観光振興を図ります。

◆観光ビジョンの対象期間

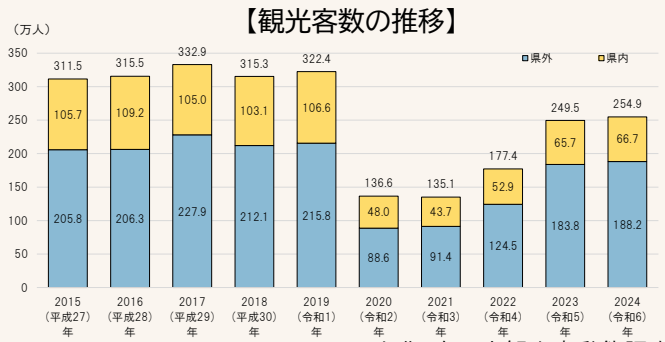
2026（令和 8）年度から 2035（令和 17）年度までの 10 年間としています。

◆岩国市の観光資源

錦帯橋周辺			
錦帯橋 	岩国城 	吉川史料館 	柏原美術館 
岩国エリア		由宇エリア	
岩国白蛇神社 	宇野千代生家 	潮風公園みなとオアシスゆう 	広島東洋カープ由宇練習場 
玖珂・周東エリア		やましろエリア	
森林体験交流施設丸太村 	玖珂総合公園 	らんかん高原交流センター 	レイクプラザやさか 
やましろエリア			
道の駅ピュアラインにしき 	SOZU 温泉 	深谷峡温泉 	錦川清流線 

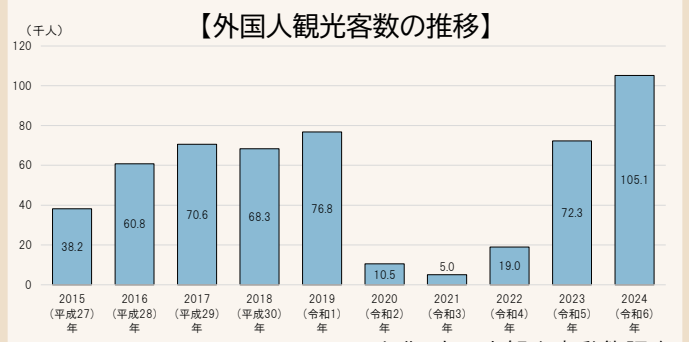
- 岩国市の観光の現状と課題 -

◆岩国市の観光客数



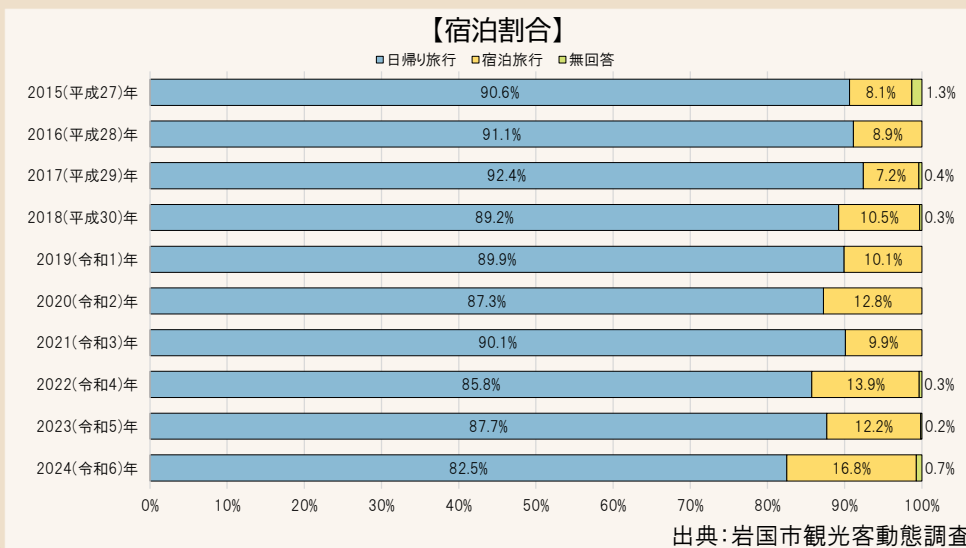
観光客数は、コロナ禍で2020(令和2)年に大きく減少しましたが、2022(令和4)年から回復傾向にあり、2024(令和6)年には、約255万人の観光客が訪れています。また、山口県内や中国地方のみならず、関東地方からの観光客も多く訪れています。

◆岩国市を訪れた外国人観光客数



外国人観光客数は、コロナ禍で2022(令和2)年に大きく減少しましたが、2023(令和5)年に大きく増加し、2024(令和6)年は過去最高となっています。また、2024(令和6)年の国別の外国人観光客の割合は、台湾、米国、欧州が多くなっています。

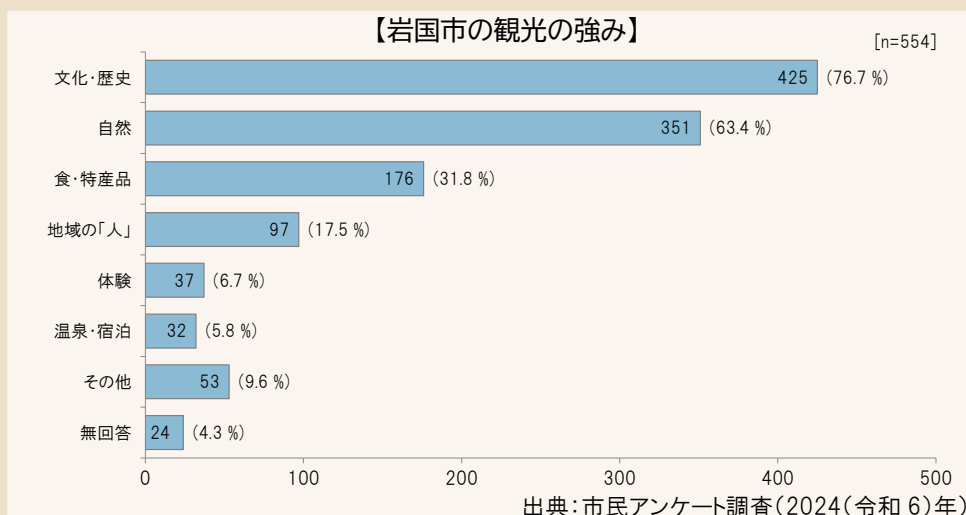
◆岩国市を訪れた観光客の滞在時間



岩国市への宿泊旅行は増加傾向にあるものの観光客の8割以上が、日帰り旅行となっています。また、日帰り観光客の滞在時間は、1～4時間が約8割を占めています。

そのため、錦帯橋周辺の魅力の向上や市内の観光資源、観光施設と連携した周遊プランの検討など、観光客の滞在や周遊の促進が必要です。

◆岩国市の観光に対する興味度



岩国市民からみた岩国市の観光の強みとしては、「文化・歴史」や「自然」、「食・特産品」が多く挙げられています。

そのため、歴史・文化や自然を活かした体験、特産品による「飲食」の魅力発信や中山間地域の自然を活用した体験型観光の促進により、観光客の市内消費額の増加につなげていくことが必要です。

- 岩国市の目指す観光振興の姿 -

◆観光ビジョンの基本理念

「観光」という言葉の語源は「国の光を観る」とされており、地域の優れた「光」を観ることが「観光」と言えます。岩国市の優れた「光」としては、清流錦川を代表とした豊かな自然、吉川家を代表とする先人が創りあげた世界に誇れる歴史・文化、地域に根差した多種多様な資源や風土があります。

また「光」を観せるため、そこに暮らしている私達が、その素晴らしさを再認識するとともに、新しい魅力を創造し、愛着と誇りを持って未来へ伝えることが必要です。

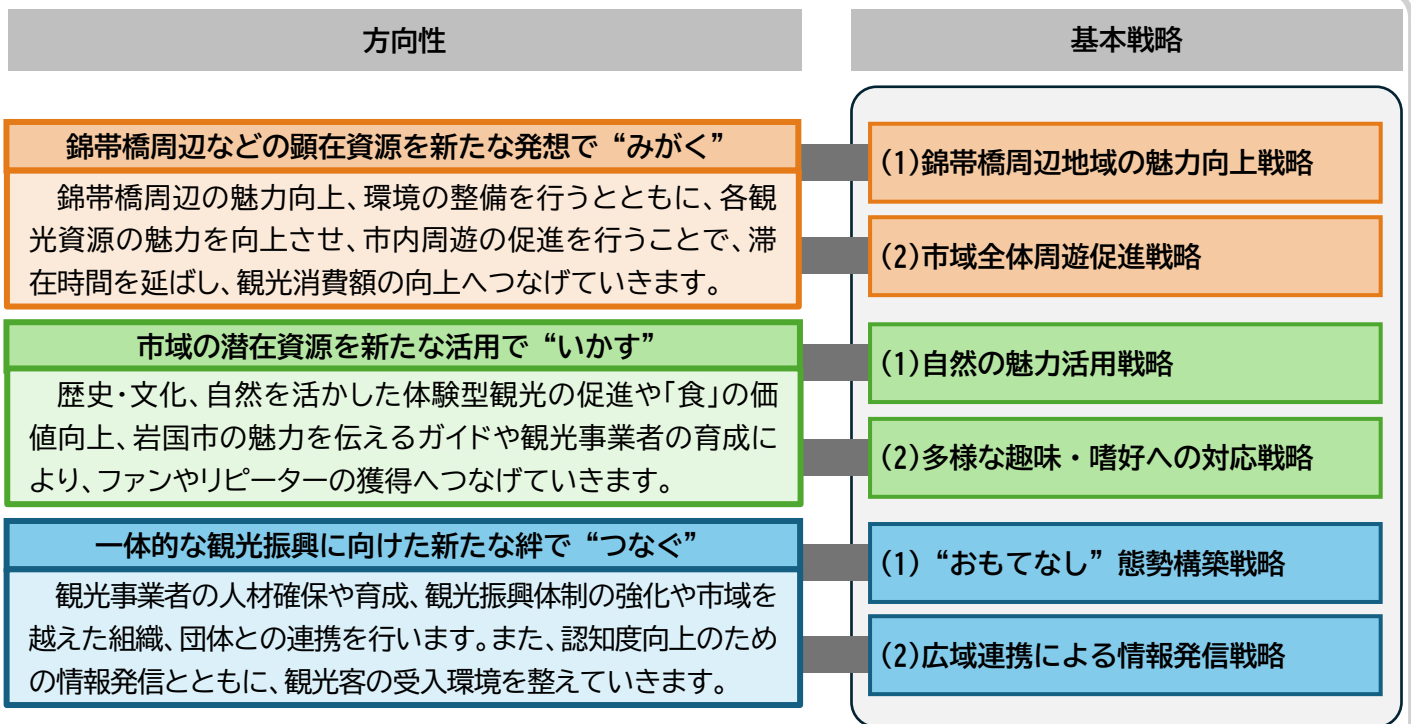
岩国市の「光」に対する愛着と誇り、またそれを伝える姿勢を市民の美学と捉え、この美学を地域に根づかせ、未来を拓いていくことが、岩国市が目指す観光の姿です。

— 岩国市観光ビジョンの基本理念 —

『未来への創造』

岩国市民が、
岩国の魅力を再認識し、
新しい魅力を創造し、
愛着と誇りを持って
未来へ伝える。

◆観光ビジョンの基本戦略



錦帯橋の世界遺産登録に向けた取組の推進や体験型観光のニーズの高まり、インバウンド対応など、近年の動向やニーズを踏まえた取組を進めていきます。

重点的に取り組む視点

- ①世界文化遺産登録に向けて
- ②移動（周遊・交通）
- ③体験型観光
- ④観光事業者・団体
- ⑤デジタル化
- ⑥インバウンド

方向性① 錦帯橋周辺などの顕在資源を新たな発想で“みがく”

(1) 錦帯橋周辺地域の魅力向上戦略

戦略

下河原の駐車場を段階的に移転することにより、観光客の回遊を生み出し、観光地としての賑わいの創出を図ります。

歴史的建築物の保存活用、景観の保全とともに、観光客の滞在時間の延長や夜型観光の推進、受入環境の整備を進めます。

取組

1. 錦帯橋下河原駐車場に代わる駐車場の整備
2. 公衆トイレやゴミ箱等の観光客の受入環境の整備
3. 夜型観光の促進に向けた取組
4. 錦帯橋や重要文化財、歴史的建築物の保存活用、継承
5. 錦帯橋の世界文化遺産登録に向けた取組
6. 多言語表記の充実等、外国人観光客の受入環境の整備

具体的な取組・イメージ

○駐車場の整備/公衆トイレの整備・改修/ ゴミ箱やベンチの設置の検討

観光駐車場や公衆トイレの整備やゴミ箱、ベンチの設置の検討を行い、観光客の駐車場の確保や受入環境の整備を行う。



○夜型観光の促進

錦帯橋や桜のライトアップを継続的に実施するとともに、ロープウエーの夜間運行の検討、ナイトツーリズムのツアー造成等、夜間の観光コンテンツを充実させることで、夜型観光や宿泊観光の促進を図る。



(2) 市域全体周遊促進戦略

戦略

観光客の滞在時間増加に向け、市内全体の周遊プランを検討し、各観光施設の受入環境の整備や施設間の情報共有ができる体制を構築することで、宿泊施設や公共交通の利用促進につなげます。

また、パンフレットや SNS を活用した魅力的な情報発信を進めます。

取組

1. 市内での周遊を促進させるための二次交通の利用促進
2. 観光施設や宿泊施設、公共交通の利用促進につながる周遊プラン・コンテンツの検討
3. 錦川清流線の利用促進に向けたプロジェクトの展開
4. 各観光施設の受入環境の整備や施設間の情報共有
5. 観光パンフレットや SNS を活用した観光情報の発信
6. 多言語に対応したホームページの活用や定期的な情報の更新

具体的な取組・イメージ

○錦川鉄道の利用促進事業

錦川清流線の利用を促進させるためのイベントの実施や周遊プランの検討等、利用促進につながる事業を実施する。また、観光施設と連携し、鉄道資源の活性化につながる事業の検討を行う。



○観光パンフレットを活用した観光コンテンツの発信

観光パンフレットを活用し、観光コンテンツや魅力の発信を行う。また、観光パンフレットを多言語対応させることで、インバウンドへの発信を促進する。



方向性② 市域の潜在資源を新たな活用で“いかす”

(1)自然の魅力活用戦略

戦略

自然や地域資源を活かした体験型観光を推進し、小学校の自然学習や修学旅行の誘致、体験プログラムの指導者や民泊数を増やすなど、受入体制の構築を進めます。

また、サステナブルツーリズムに対応した観光ガイドの育成とPR活動を進めます。

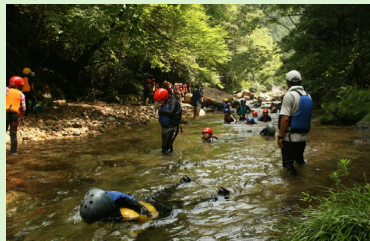
取組

1. 自然や地域資源を活用した体験型観光の促進
2. アウトドア事業者と連携した体験型観光の造成
3. サステナブルツーリズムやアドベンチャーツーリズムの推進
4. 地域の歴史・文化、地勢のストーリーをつなぐ伝えるコンテンツやツアー造成
5. 小学校の自然学習や修学旅行生を対象とした体験型教育旅行の促進
6. 体験や民泊等、地域の受入れ環境の整備

具体的な取組・イメージ

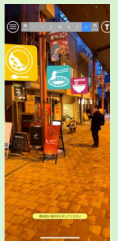
○錦川を活用した体験型観光

ラフティング体験や沢トレッキング体験等、錦川での体験型観光を実施する。



○VRやARなどのデジタルコンテンツの造成

VR や AR を活用し、岩国市の魅力をどこからでも体験できるデジタル技術を活用したコンテンツを検討する。



(2)多様な趣味・嗜好への対応戦略

戦略

お土産総ブランド「つまんでちょんまげ」シリーズ、日本酒や岩国れんこん等の「食」を中心とした観光施策により、特産品やお土産等の価値向上を図ります。

また、愛宕スポーツコンプレックスや広島東洋カープ由宇練習場を拠点に、スポーツを活用した観光振興を進めます。

取組

1. 観光客のニーズや宿泊施設の実態の把握
2. 特産品を活用した観光振興、販路開拓
3. 「食」の魅力の向上
4. 岩国の日本酒を活用した観光の推進
5. ターゲットに合わせたプロモーションの実施
6. スポーツコンテンツを活用した観光の推進

具体的な取組・イメージ

○特産品の価値向上

「つまんでちょんまげ」シリーズのような特産品のブランド化や農産物の価値向上などにより、「食」の魅力を高める。



○岩国日本酒プロジェクトの実施

岩国五蔵と連携した、岩国日本酒プロジェクトの企画、実施により、日本酒のPRを促進させることで認知度向上を図り、インバウンドを含む観光誘客を行う。



方向性③ 一体的な観光振興に向けた新たな絆で“つなぐ”

(1)“おもてなし”態勢構築戦略

戦略

観光に関わる組織の連携、市民の理解や協力を促進させるために、人材の育成や行政、民間企業、住民が協力した観光振興の体制構築を図ります。

観光客の受入環境の整備として、キャッシュレス決済のシステム導入や観光施設の維持管理や機能向上の検討を進めます。

取組

1. 市全体で観光振興を推進する組織体制の強化
2. 行政・民間企業・住民が協力した観光振興の推進体制の構築
3. 観光ガイドや観光に関わる人材の育成
4. 観光施設の維持管理や機能向上
5. キャッシュレス決済に対応したシステムの導入

具体的な取組・イメージ

○行政、民間事業者、住民での意見交換の実施

観光振興について、行政、民間事業者、住民が意見交換を行う機会を創出し、行政のみならず民間企業や住民とも協力しながら観光振興を進められる体制を構築する。



○観光ガイドの育成

観光客の満足度を高め、地域の文化や歴史、観光施設の魅力を伝えるため、ガイドボランティア協会と連携した観光ガイド養成セミナーを開催することで、観光ガイドの育成を行う。



(2)広域連携による情報発信戦略

戦略

広島広域都市圏の自治体や多様な団体と連携し、広島・宮島等を訪れる観光客を岩国市へ誘客します。岩国錦帯橋空港の首都圏・沖縄県からの利用促進を図るほか、外国人観光客の認知度向上を目指したプロモーションを実施するなど、新たな誘客につながる取組を進めます。

取組

1. 広島・宮島等の近隣市町を訪れた観光客の誘客
2. 広島広域都市圏を構成する自治体との連携
3. 市域を越えた多様な組織・団体・地域との連携
4. 岩国錦帯橋空港の利用促進に向けた情報発信・プロモーションの実施
5. ホームページや SNS を活用した情報発信や多言語化
6. 外国人観光客に向けた情報発信や認知度の向上

具体的な取組・イメージ

○広島・宮島からのインバウンドの誘客の促進

広島や宮島を訪れているインバウンドの誘客に向けたツアーリズムや商品の開発等、広島・宮島と連携した取組を促進する。また、広島・宮島と連携した PR 活動を実施する。



○岩国錦帯橋空港の利用促進に向けた情報発信

空路がつながっている首都圏や沖縄県を対象とした空港の利用促進につながる取組の実施や情報発信により、新たな観光誘客を図る。



